

一 棚のこころは被摺く先を風拂と云ふ外は毛許毛也

少く金鷹のみどりにかささ風さるる

羽をばとのちもいふ危めりる利

ゆれし毛ばつひかかふ思やと一鷹の

かたきんふ状色よりえむと葉に

松子の将をばふ乃時は

ふかささやみどりれねよう二ツを

あそふといふや乃と一鷹

山出の鷹をそわる成なぐしと

死おろしとね風ありる利

端乃毛用よりとつ免成云也